

## ■ アイルランド共和国における出産、子育て

京都女子大学 表 真美

## 1. はじめに

アイルランド共和国は、英国西部、北海道ほどの国土に476万人が暮らす西ヨーロッパの国である（図表1）。1810年より英国に併合され、イースター蜂起（1916年）、対英独立戦争（1919～21年）を経て、1949年に共和制を宣言（英連邦を離脱）した。その後も両国間での紛争が続き、和平合意（ベルファスト合意）に至ったのは1998年であった。首都はダブリン、公用語はアイルランド（ゲール）語と英語である<sup>1)</sup>。

筆者は2016年4月から1年間、同国で唯一の家庭科教員養成課程である、アイルランド国立大学ゴールウェイ校、セントアンジェラスカレッジに客員研究員として赴任した。滞在時のフィールドワーク、体験をもとに、アイルランド共和国における出産と子育てについて述べたい。

## 2. アイルランドの宗教と生活

アイルランドの大きな特徴の一つとして、カトリック信者が多いことが挙げられる。アイルランドの生活は「宗教」なしには語ることが出来ない。

アイルランドは、2011年国勢調査の84.2%から5年を経て78%に減少したものの、未だ国民の8割近くが「カトリック教徒」と回答するカトリック国である。それを反映し、小学校（National School 国民学校）の96%、普通中等教育学校のほぼすべてが特定の宗派により運営される私立学校であり、学校の運営母体の多くは修道会（カトリック教会によって認可された宗教団体）が占めている<sup>2)</sup>。1831年に国民学校が成立し公教育制度が始まる過程で、キリスト教会による学校運営が決定づけられた<sup>3)</sup>。その後イギリスによる長い統治を経て現在も、歴史的経緯から、学校運営における宗派の位置づけには大

きな変化がなく、宗派が学校の生活を特色づけている。しかし、財政面は国と地方が負担し公立に等しく、教育は無償である。また、教育課程は、「全国カリキュラム・評価委員会」の助言に基づき、教育大臣が決定している<sup>4)</sup>。

アイルランドの小学校では、週に2.5時間以上の宗教の時間があり、朝、昼食の前後、帰りの時間にお祈りが行われている。宗教の時間には、アイルランド聖公会が示したカリキュラムに準拠した統一教材が使われている<sup>5)</sup>。中等教育においては、宗教教育は選択教科の一つとして位置付けられ、他教科と同様に統一カリキュラムが設けられている。2015年の全国統一試験によると、前期中等教育学校では、46%の生徒が「宗教教育」を受講していたが、後期中等教育学校では2%の選択であった。しかし、実際には後期高等学校でも多くの生徒が学校独自の宗教教育を学んでおり、他教科とは異なる特殊な教科として重視されている<sup>6)</sup>。

町のいたるところに教会が見られ、日曜の午前にはミサに通う人が多い。アイルランド最大の祝日は、3月17日、アイルランドにキリスト教を伝えたセントパトリックスの命日「セントパトリックスデー」である。国中のいたるところで大きなイベントが開かれる。クリスマスが国民の大変重要な宗教行事であることは言うまでもない。

## 3. 人工妊娠中絶について

宗教は、教育に限らず「出産」にも大きな影響を及ぼしている。

今年5月25日、アイルランドで人工妊娠中絶の合法化の是非を問う国民投票が行われた。開票の結果、66.4%の支持を得て中絶が容認されるようになったことが、我が国でも報じられた。アイルランドでは、1983年の改正（第8回改正）により妊娠中絶の禁止が憲法に明記され（40条3項）、母体の命に危険がない限り、性的犯罪の被害者などでも中絶が認められていない。今回の国民投票結果を受けて、憲法改正の手続きが進められることに

Mami OMOTE

京都女子大学発達教育学部 教授

〔著者紹介〕（略歴）お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了、博士（学術）

〔専門分野〕家族関係学



写真1. 「第8回改正」を守るキャンペーンパンフレットとステッカー

なった。

憲法40条3項の改正に関しては、筆者が滞在していた2016年には既に議論が高まっており、カトリック教会を背景とする団体により、第8回改正を守るキャンペーンが盛んに行われていた。そのキャンペーンでは、「第8回改正」を守る以下の「8つ」の理由が挙げられていた(写真1)。

①第8回改正により10万人の命が守られた、②胎児の心臓は受胎からたった21日で鼓動し始める、③アイルランドでは女性の妊娠は安全である、④英国では、ダウン症と診断された胎児の90%が堕胎されており、そのような堕胎はアイルランドの平等の精神に反する、⑤生まれてくるすべての子どもは望まれた子どもであり、養子は有効な手段である、⑥アイルランドでレイプされて妊娠した女性の74%は中絶をしておらず、その決断を後悔していないと語る女性もいる、⑦胎児に異常がある場合、思いやりのあるケアが行われる、⑧英国をはじめ他のヨーロッパ諸国では、妊娠した5人に1人が中絶を行っている、アイルランドは19人に1人である。国民投票で負けたとは言え、33.6%の国民がこの意見に賛成してい

たことは事実である。

筆者が滞在していた大学の同僚の複数の養子を迎えており、それを特別視するような雰囲気は全く感じられなかった。人口が少ないため、統計的には大きな数ではないが、アイルランド人にとって、養子のごく日常的なことなのだろう。また同大学には、高校在学時に出産して子どもの父親と結婚し、家族の支援を受けて子育てしながら通う学生がいた。見るからに若いお母さんが赤ちゃんを連れている姿を街で時折見かけたが、この光景も、カトリック国であり、中絶が禁止されていることと無関係ではないと考えられる。

#### 4. 家庭科教育における保育(Childcare)の内容

それでは、学校において、出産、子育てはどのように教育されているのだろうか。

我が国の中学校学習指導要領、「技術・家庭」家庭分野では、[A 家庭生活と家族]の領域の中に「幼児の生活と家族」として、「保育」の内容が位置づけられている。「幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること」「幼児にとっての

遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること」「幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること」が内容として提示されている。

また、高等学校「家庭基礎」では、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉子供の生活と保育」領域の中に、「子供の生活と保育」として「保育」の内容が位置づけられている。「乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること」「子供を生み育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察すること」と発展した内容になっている。

アイルランドでは、中等教育における必修教科は「アイルランド語」「英語」「数学」の3教科のみであり、その他の教科はすべて選択教科である。25～30の教科から、前期中等教育学校では約10教科、後期では6～8教科を選択する。家庭科は、前述の「宗教教育」と同様、前期および後期中等教育における選択科目として位置づけられている。前期課程は全体の35～36%、後期課程は22～23%の生徒が家庭科を選択している。

アイルランド前期中等教育における家庭科の内容領域は、「食物学および調理技能」「消費者科学」「社会・健康科学」「資源管理および家庭科学」「被服学」がコア領域とされ、各々40、15、10、10、10%と領域ごとの割合が明示されている。選択領域は15%で「保育」「デザイン・クラフト」「被服製作」の中から1領域を選択する。後期中等教育には「保育」の内容は含まれていない<sup>7)</sup>。

前期中等教育の家庭科は、完成年度を2022年とした改組が現在進行中である。2017年に示された新しい統一カリキュラムには、「保育」領域の目的が以下のように示さ

れている。「この選択領域の主な学習は子どもの発達についてである。家族の形成期における子どもの身体的・精神的・情緒的発達が考察される。その目的は、生徒自身が知識を身につけ、対人関係技能とケア技能を身につけるのを助けることである。これは、自分の家族の状況や後の人生のための助けになるはずである。」さらに、6項目の内容が提示されている(表1)。身体面・精神面・情緒面の発達が提示されていること、また、特別に支援が必要な子どもについて項目を設けていることが、我が国とは異なる点であり<sup>8)</sup>、教科書にもその内容が見られる(写真2)。

アイルランドでは、家庭科の授業実践の折に、ページ数の多い、資料が豊富に掲載された教科書が用いられている<sup>9)</sup>。2016年に行った家庭科教師を対象とした調査により、前期中等教育家庭科教科書4種の中で、最も多くの教師に使われていた Folens 社『Learning For Life』における保育の内容に注目したい<sup>10)</sup>(表2)。

22ページにわたり、子どもの発達、乳幼児に与える食事、安全と衛生、社会的支援・家族法について述べている。大変詳細、具体的な情報を提供しており、我が国における育児書の内容に近い。例えば「安全のヒント(428ページ)」では、「子どもの手の届かないところに保管しよう」として「薬、洗剤・漂白剤、ポリ袋、マッチ・ライター、ナイフやハサミなどの刃物、観葉植物」が挙げられていた。また、「トイレトレーニングのヒント」では、「楽しく、リラックスした環境で」「多くの励ましや誉め言葉を使い、慌てない」「我慢して」「繰り返し短時間、おむつを外してトイレに行かせるようにしよう」「安定して魅力的なトイレを利用しよう」など、細かい10項目の注意事項が示されていた。

アイルランドでは、前期中等教育の家庭科に「保育」

表1. アイルランド前期中等教育家庭科：保育領域の概要

|        |                                                 |
|--------|-------------------------------------------------|
| 目標     | 環境と子どもの発達との関連を生徒に気づかせる                          |
| 内容     | 人生の始まり：受胎、誕生および最初の年の基本的な理解                      |
|        | 身体面の健康：子どもの身体発達の基本的な理解                          |
|        | 精神面の健康：子どもの心の発達の基本的な理解                          |
|        | 情緒面の健康：子どもの感情の発達の基本的な理解                         |
|        | 特別なニーズを持つ子ども：生活上の障害と医学的障害、先天性障害                 |
|        | 家族生活の変化：家族の構造、単純な家族法の概要説明と社会（家族の崩壊、助けを求める場所を含む） |
| 生徒につく力 | 子どもの発達段階を知る                                     |
|        | 幼い子どもたちを理解し、関係をもつ                               |
|        | 保育環境に貢献する                                       |
|        | 発達のニーズを見出す                                      |

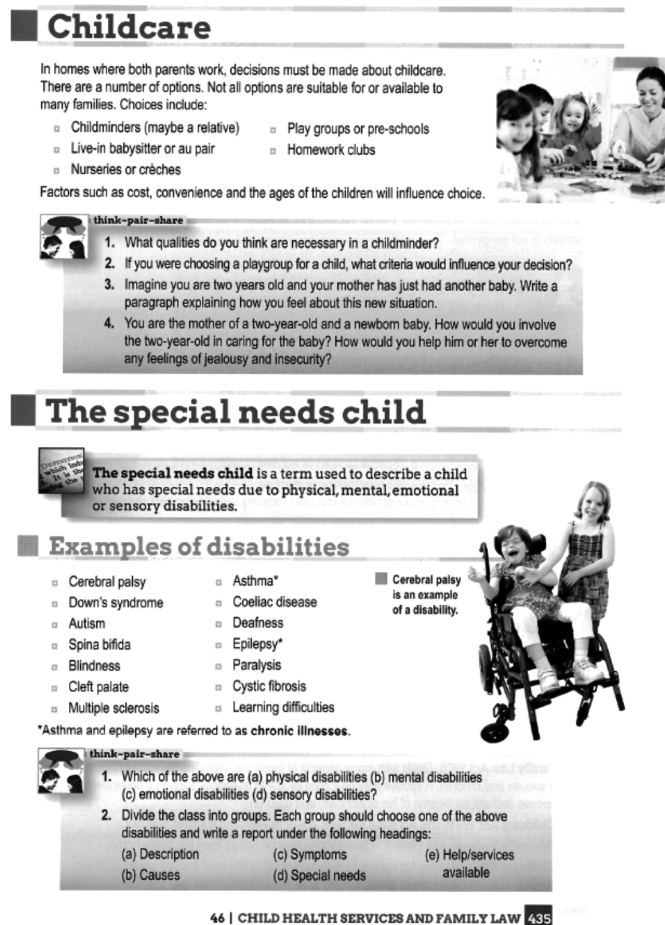


写真 2. 家庭科教科書「子育て支援」「特別に支援が必要な子ども」のページ  
(Folens 社『Learning For Life』435頁)

表 2. アイルランド家庭科教科書「子どもの世話」領域の内容項目

|          |                       |             |       |    |                      |    |            |  |
|----------|-----------------------|-------------|-------|----|----------------------|----|------------|--|
| 43       | 子どもの発達<br>pp. 416-421 | 誕生の概要       |       | 45 | 安全と衛生<br>pp. 428-432 | 安全 | 安全のヒント     |  |
|          |                       | 妊娠中の栄養      |       |    |                      |    | 子どもを火傷から守る |  |
|          |                       | 妊娠時に避けるもの   |       |    |                      |    | 窒息、溺死の予防   |  |
|          |                       | 妊娠女性へのアドバイス |       |    |                      |    | 転落の予防      |  |
|          |                       | 子どもの発達      | 環境    |    |                      | 衛生 | おむつ交換      |  |
|          |                       |             | 身体的発達 |    |                      |    | 沐浴         |  |
|          |                       |             | 情緒的発達 |    |                      |    | 歯のケア       |  |
|          |                       |             | 社会的発達 |    |                      |    | トイレトレーニング  |  |
| 知的発達     | トイレトレーニングのヒント         |             |       |    |                      |    |            |  |
| 子どもの発達段階 |                       | 被服          | 選択    |    |                      |    |            |  |
|          |                       |             | おむつ   |    |                      |    |            |  |

|    |                      |            |             |    |                               |               |          |  |
|----|----------------------|------------|-------------|----|-------------------------------|---------------|----------|--|
| 44 | 食物と栄養<br>pp. 422-427 | 母乳         | 利点          | 46 | 子どもの健康サービスと家族法<br>pp. 433-437 | 公的保健師         |          |  |
|    |                      |            | 課題          |    |                               | 赤ちゃんの病院       |          |  |
|    |                      | 人工栄養       | 哺乳瓶による授乳    |    |                               | 予防注射          |          |  |
|    |                      |            | 乳児への授乳      |    |                               | 児童福祉のボランティア団体 |          |  |
|    |                      | 食品衛生       | 感染予防        |    |                               | 子育て支援         |          |  |
|    |                      |            | 殺菌          |    |                               | 特別に支援が必要な子ども  | 障害の例     |  |
|    |                      | 赤ちゃんをくるむこと |             |    |                               |               | 特別に必要な支援 |  |
|    |                      | 離乳         | 離乳への準備      |    |                               | 家族法           |          |  |
|    |                      |            | 適切な離乳食      |    |                               | 家族の崩壊         |          |  |
|    |                      |            | 多様な食品を与える   |    |                               |               |          |  |
|    |                      |            | 8か月以降の適切な食品 |    |                               |               |          |  |
|    |                      |            | 市販のベビーフード   |    |                               |               |          |  |



が位置づけられており、子どもの発達や育児の詳細を学習する機会が設けられている。教科書の内容は、前述のような宗教の影響は見られなかった。教科書は実際の育児に直接役立つ有意義な内容を含んでいたが、アイルランドにおける家庭科は選択教科であり、その中でも「保育」は選択領域である。したがって、我が国のように、中学校、高等学校においてすべての子どもたちに学習の機会が与えられてる状況にはない。

## 5. アイルランドの産休・育休と乳幼児の保育

我が国の育児・介護休業法は、原則として子が1歳に達するまで休業でき、保育所に入れない等の場合には育児休業期間を最長2年にまで延長が可能である（平成29年改正）。さらに180日までは約7割、それ以降は5割の育児休業給付金が、雇用保険から支払われている。アイルランドではどうか。

アイルランドで雇用されている女性には、妊産婦休暇26週間が与えられる。産前2週間は休暇取得の義務があり、産後休暇終了後に追加で16週間休暇を取る権利がある。休暇中の給与給付は雇用契約による。実際には、産後半年間の休業を取って、職場に復帰する女性が一般的である。また、休業者のすべてに給与が保証されているわけではない<sup>11)</sup>。

また、職場復帰後の子どもの保育の選択肢としては、

①クレッシュ（民間保育所）、②チャイルドマインダー（自宅で5人まで保育）、③オーペア（ホームステイしている留学生が保育）、④ナニー（子どもの自宅または保育者宅で一人、きょうだいの保育）、⑤祖父母による保育などがあげられる<sup>12)</sup>（表3）。育児支援NPOのウェブサイト、あるいは前述の家庭科教科書にも、このような民間の保育方法が紹介されているのが現状である（写真2）。国の認定や補助はあるものの、我が国の、保育所や認定こども園のような制度化された公的保育施設は存在せず、「クレッシュ」も保育料や保育内容が施設により大きく異なっている。

一方、アイルランドの小学校には、6年間の義務教育に加え、2年間の幼児学級が併設されており、8年制である。小学校には Junior Infants と呼ばれる4歳クラス、Senior Infants と呼ばれる5歳クラスが設置された8年制であり、多くの子どもは6歳以前の幼児学級から就学している。4歳児は約4割、5歳児の殆んどすべてが小学校に在籍している。前述のように、小学校の多くは修道会が運営しているが、教育は無償である<sup>13)</sup>。小学校以外の就学前教育も無償化の方向にある。また、国の児童・青少年局（Department of Children and Youth Affairs）が管轄する地域の保育委員会（CCC: County Childcare Committee）により、一時保育や保健サービスなどの各種子育て支援が行われている。働きながら育児する母親

表3. アイルランドの託児施設

| クレッシュ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | チャイルドマインダー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆最も一般的な育児の一形態で、国のガイドライン（HSE）に従う民間保育所</li> <li>◆通常3～12ヶ月、通常12～24ヶ月、2～3歳に分かれて保育される。0歳児は3人に1人、1・2歳児は6人に1人、3歳児は3人に1人の保育士が基準である</li> <li>◆子供の数は、施設で利用可能なスペースに依存する。すべての保育士は、HSEによって定められたガイドラインに従って訓練されている。</li> <li>◆屋外遊び場があり、ほとんどの施設には健康的で栄養価の高い食事を提供する調理室がある</li> <li>◆通常、午前7時30分から午後6時30分まで開かれ、保育時間は選ぶことができる</li> <li>◆施設により保育内容、保育料などが異なる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自宅で育児サービスを提供する施設。6歳未満の子供を5人まで収容することができる</li> <li>◆チャイルドマインダーの組織に登録している者が多い。柔軟性があり、必要に応じてフルタイムとパートタイムのケアを受け入れやすい</li> <li>◆暖かく思いやりのある雰囲気「家庭環境」を提供できる。1日を通して子供のための教育活動を提供し、子供が昼寝をしたり静かな時間を過ごすことができる静かな場所である</li> <li>◆食事は親が食事を用意する場合と、チャイルドマインダーが提供する場合がある</li> <li>◆子どもの数は少ないが、適切な資格を持たない者もいる</li> </ul> |
| オーペア                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ナニー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆保育と家事の手伝いの代わりに、部屋、生活費、お小遣いを提供される英語学習のための留学生</li> <li>◆「au pair plus」は経験を持つ。より長い時間（週30-40時間）働き、週に2泊までベビーシッターを行う。より多くの経験を持っている</li> <li>◆スタンダードオーペアの小遣いは80から100ユーロで、オーペアプラスは120から180ユーロ</li> <li>◆費用対効果が高い保育であり、家族の週内の柔軟性を可能にするが、経験と資格が不足している可能性がある</li> </ul>                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆育児をキャリアとして選んだ経験豊富な専門家、専門的な経験と関連資格を持っている。子どもの自宅で保育し、住み込みの者もいる。人気のある保育形態である</li> <li>◆保育・教育活動は週45-50時間。家族によって正式に雇用されるため、法定休暇と祝祭休暇、祝祭日を受ける権利がある。</li> <li>◆費用は週500から600ユーロ</li> <li>◆雇用主としての登録に関連する書類が必要</li> </ul>                                                                                        |

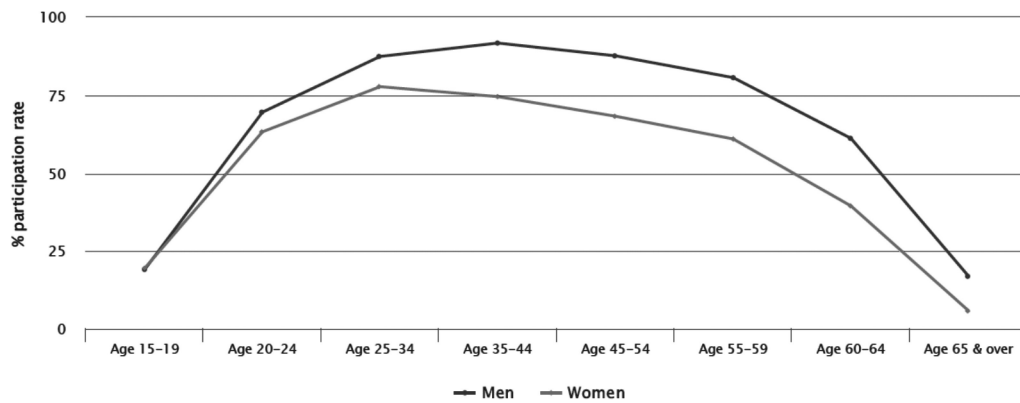


図1. アイルランド年齢階級別労働力率（2016）

へ補助金（フルタイム月額20ユーロ、パートタイム10ユーロなど）が支給されるものの<sup>14)</sup>、産前・産後の休暇や託児施設に関しては、課題があるのが現状である。

アイルランドでは、この30年で女性の就業率が急増した。年齢階級別労働力率をみても、25歳から44歳の女性の約75%が就労している<sup>15)</sup>（図1）。急速な女性の社会進出に公的支援が追いついていないのであろう。

筆者が赴任していた大学にも、乳幼児を育てながら仕事を続ける職員が複数勤務していた。最も多い子どもの預け先は「クレッシュ」であったが、中には長期にわたって一人の「ナニー」に子どもの世話を託している教職員、夫の祖父母に乳児を預けて遠方から通う教職員が見られた。保育内容から、0歳児の保育料が1か月900ユーロのクレッシュを選んだ教員もいた。

## 6. アイルランドの出生率と女性の活躍

それでは、急速な女性の社会進出を経験したアイルランドの出生率の動向はいかなるものであろうか。

アイルランドの合計特殊出生率は1980年の3.21から、1990年には2.11と急激に減少した。その後2.0前後をたどり、2015年は1.94であった<sup>16)</sup>。他のヨーロッパ諸国と同様、初婚年齢が上昇し、少子化が進んでいるが、まだ人口置き換え水準を大きく下回らない数値を保っている。また、2017年度はヨーロッパ諸国で最も高い出生率を記録し、人口増加が報じられ、ベビーブームの再来と言われている<sup>17)</sup>。

一方、2017年世界経済フォーラム（WEF）のジェンダーギャップ指数ランキングでは、アイルランドは北欧諸国などに次ぐ8位であった<sup>18)</sup>。教育に関する男女差が全くなく、政治参画の順位が高い（経済参画50位/144か国中、教育1/144、健康96/144、政治参画6/144）。第7・8代大統領は共に女性であり、政治参画の順位に影響している。経済参画に影響を及ぼす女性の管理職割合は、20%を上回る北欧諸国、フランス、英国などには大きく

及ばないが、10.3%（2014年 OECD による）であり、我が国の3.1%の約3倍となっている<sup>19)</sup>。我が国のランキング順位は、アイルランドを大きく下回る114位であったことはよく知られている（経済参画114位/144か国中、教育74/144、健康1/144、政治参画123/144）<sup>20)</sup>。

## 7. 働きながら子育てする女性の事例

アイルランドにおいては、我が国ほど産休、育休の制度が充実しておらず、子育てしながら就業を継続するための託児施設も十分に制度化されていない。にもかかわらず、合計出生率は我が国のように低い水準ではなく、むしろ出生数が増加している。また、子育て年齢の労働力率は我が国を上回り、管理職率は我が国よりはるかに高い。男女の平等は、フィンランドの「ネイボラ」に代表される子育て支援が充実した北欧諸国に伍して実現されている。この状況にはどのような背景があるのだろうか。

ここで、育児しながら職業を継続している2女性の事例を簡単に紹介したい。

### 【中等教育学校教師、A氏の事例】

A氏はアイルランド地方都市の中等教育学校に勤務する30歳代後半の日本語教師である。大学を卒業して約2年間日本に滞在して日本語の勉強をした後、郷里の中等教育学校に就職した。2017年当時、7歳と4歳の娘を持ち、夫が「専業主夫」として家事、育児を担当していた。アイルランドでは、毎年、前・後期中等教育の国内統一終了資格試験が行われている。その際、A氏はオーラル試験の試験官として各地に度々出張に行かなければならないが、その際もすべて夫が子どもたちの世話をしていた。

### 【家庭科教師養成課程教員、B氏の事例】

B氏は、アイルランド国立大学に勤務する30歳代半ばの被服学教員である。2017年当時、1歳の子どものクレッシュに預けて仕事を続けていた。夫は家業である酪農に従

事していたが、転職のためのキャリアアップを目的として大学に入学し、学生であった。家事・育児は随時、夫と妻が協力して行っていた。

両者とも家計の担い手は妻である。この家族以外にも、筆者の周辺には夫より収入の高い妻が複数見られた。我が国の結婚に関する意識調査では、女性の67.2%が「結婚相手に求めること」を「経済力」と回答し、「性格」に次ぐ2位であった<sup>21)</sup>。また、男性の35.2%が「結婚していない理由」を「結婚生活資金が足りないと思うから」と回答している<sup>22)</sup>。妻の収入で家計を賄うことは一般的ではない。アイルランドでは、収入が高く安定した教育部門では、75%を女性が占めている<sup>23)</sup>。全体としての男女の賃金格差は決して小さくないものの(12.8%でOECD諸国中12位、日本は26.6%で2位)、高学歴女性の就業の安定や、男女の役割に対する意識の柔軟性が、充分ではない条件下での女性の活躍の要因の1つと考えられる。

## 8. おわりに

アイルランドの出産と子育てについて、我が国の状況と比較しながら述べてきた。冒頭にあるように、アイルランドは、カトリックを背景とした保守的な考え方が根強い国であることは否めない。中等教育学校での家庭科の選択も女子が多く、未だ保護者が「女の子に家庭科を学ばせたい」と考えている<sup>24)</sup>。しかし、子育てをしながら職業を継続する女性が増え、男女の格差が縮まっている。それは子育て支援の充実がもたらしたものではなく、柔軟な意識によるものと考えられるが、その背景については、さらなる分析が必要である。

子育て支援制度の整備が進む我が国であるが、その成果が、少子化の是正や女性の地位向上に結びついているとは言えないだろう。一方、我が国の家庭科教育は、小・中・高等学校で男女必修という点では、他国には類を見ない充実度を誇っている。この貴重な学習時間において、出産、子育ての重要性と女性の地位向上につながる意識を育むことは、極めて重要な使命であろう。

家庭科教科書出版社 Folens 社、および事例にあげた A 氏、B 氏には、掲載についての許可を要請し、承諾を得た。

## 参 考 文 献

- 1) 外務省ホームページ。“アイルランド基礎データ。”  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ireland/data.html>  
(入手日：2018.6.5)
- 2) アイルランド統計データホームページ。“教育。”<http://www.cso.ie/en/education/>(入手日：2016.8.19)

- 3) 岩下誠。アイルランド公教育の成立をめぐる一研究動向と課題一。教育学研究。2012, 79, 286-296
- 4) 文部省大臣官房調査統計企画課編。“アイルランド。”諸外国の学校教育：欧米編。1995, 185-190
- 5) 表真美。アイルランド共和国の小学校における宗教教育—カトリック新カリキュラムを中心に—。京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要。2018 31, 89-104
- 6) 表真美。アイルランド中等教育における宗教教育。京都女子大学発達教育学部紀要。2017, 13, 1-10
- 7) 表真美。アイルランド中等教育における家庭科教育—中等教育における家庭科の位置づけ、教育スタンダードの内容を中心に—。家政誌。2016, 67, 1-11
- 9) 表真美。アイルランドにおける家庭科教師の意識と授業資料。家政誌。2017, 68, 1-12
- 10) Enright, C; Flynn, M. Learning For Life Third Edition. Folens Publishers, 2015
- 11) アイルランド市民情報ウェブサイト。“産休。”[http://www.citizensinformation.ie/en/employment/employment\\_rights\\_and\\_conditions/leave\\_and\\_holidays/maternity\\_leave.html](http://www.citizensinformation.ie/en/employment/employment_rights_and_conditions/leave_and_holidays/maternity_leave.html) (入手日：2018.6.30)
- 12) “eumom”ウェブサイト。“保育の選択肢。”<https://www.eumom.ie/baby/your-guide-to-childcare-options/>(入手日：2018.6.30)
- 13) 表真美。アイルランドにおける初等教育の現状—小学校で4・5歳児を対象に行われる幼児教育を中心に—。京都女子大学発達教育学部紀要。2017, 14, 1-10
- 14) アイルランド市民情報ウェブサイト。“子育て支援。”[http://www.citizensinformation.ie/en/education/pre-school\\_education\\_and\\_childcare/your\\_childcare\\_options.html](http://www.citizensinformation.ie/en/education/pre-school_education_and_childcare/your_childcare_options.html) (入手日：2018.6.30)
- 15) アイルランド中央統計局ウェブサイト。“Women and Men in Ireland 2016。”<https://www.cso.ie/en/statistics/womenandmeninireland/>(入手日：2018.6.30)
- 16) 経済産業省。“諸外国における女性の活躍推進に向けた諸制度等の調査。”平成26年度委託調査「企業における女性の活用及び活躍促進の状況に関する調査」報告書、2014
- 17) The Irish Times ウェブサイト。“ベビーブームがアイルランドの出生率をEUトップにした。”<https://www.irishtimes.com/news/ireland/irish-news/baby-boom-puts-ireland-top-of-eu-birth-rate-table-1.3150045> (入手日：2018.6.30)
- 18) World Economic Forum. Insight Report, The Global Gender Gap Report 2017, 2017, 10-11
- 19) 前掲 報告書16)
- 20) 前掲 報告書18)
- 21) 内閣府。結婚・家族形成に関する意識調査、2010
- 22) 内閣府。結婚・家族形成に関する意識調査、2014
- 23) 前掲 15)
- 24) 前掲 7)